



祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.24

毎月1日号に掲載

過去の地震や津波の経験・思い込み・それまでの常識に縛られていた事だ。「想定外」もあるかもしれないという「想定」が必要だという事を、福山は安全地帯と信じている福山市民も胸に刻んで欲しい。非常食の備蓄等も必要だろう。

陸前高田市長の講演会

7月末に水曜会の議員有志で陸前高田市の戸羽市長を招き講演会を開催した。私が震災直後に支援物資を届けに陸前高田を訪問した事がご縁となり、多忙な身にもかかわらず交通費のみで来てくれた。

発災から2年4ヶ月、メディアが取り上げてくれなくなったので、戸羽市長は全国を回り被災地の実情を訴えている。今回の講演会の予告記事を書いてくれたのは、本誌と中国・山陽新聞のみだった。講演は全市民に聴いていただきたい内容であったが、議員主催という事も取り上げにくかった様子だ。議員の不祥事は記事になっても、普段の活動が取り上げられる事はまず無いので、こうして自分で書くしかない。

戸羽市長は、津波発生時のシミュレーションや対策は十分行っていたが、結果的にはそれが甘かったと述べた。原因は、

陸前高田市の職員は295人中68人が亡くなった。公務員

は災害発生時でも逃げられないが、いざという時は一時的に退避できるルール作りが必要ではないかとの提言もあった。それにしても、復興を阻んでいるのは法律の壁だという。法律は所詮、人間の決めた約束事だから国会で変えれば良いのに、有力国会議員でも法律改正を渋る。いかに現状の法律内でごまかすか、という話をしたりする。戸羽市長の復興に向けた原動力は「くやしき」だった。多くの部下や市民、家族を犠牲にした身と、官僚や国会議員との差は「くやしき」があるか無いかの違いだと言っている。

最後に戸羽市長は、「被災地に来られたら、ぜひ備後弁で話してほしい。そうすれば福山から来てくれたことがわかり、住民の励みになります。」との事だった。観光で良いので、ぜひ一度陸前高田市を訪問してほしい。